

記念切手発行について



はまぐち よしひろ
濱口 美博

“朋百 (vol. 113) 長崎大学医学部開学 150 年の特別号”に寄稿させて頂きましたが①西洋医学教育発祥 150 年、②長崎大学医学部開学 150 年、③長崎大学医学部と大学病院の現状、④世界中で原爆に被爆した唯一の大学医学部と犠牲者の慰霊碑、⑤三三会全員が卒業後 50 年で桜の記念植樹を行い、これと記念切手に参加することにしました。

このことについては我々のクラス全員には“花月”での祝宴の時にお計りして、クラスの方々へ了解を頂いた。更に、大学の医学部長へもご相談して許可を頂き、帰広して早速に広島中央郵便局の直接担当の方へ先ずもってお話をし、更に、郵便事業 KK 中国支社へ、更に、東京の日本郵便事業本社へもその旨記念切手の発行をお願いするために働きかけてもらいました。

これがまた大変で、今回は長崎大学の記念切手のため文部科学省の推薦を頂いて、東京本社の方で検討して決めるとの事であったが、平成 21 年、平成 22 年発行分は既に終了していて、平成 23 年分に入れて頂くべくお願いしました。平成 23 年分は今年夏から秋頃に取りかかるとの事で改めて通知して下さいることになりました。

そのために記念切手の原案を併行して制作することにしました。特に、切手発行のための写真を撮りに、私は体調をこわしているために杖をたよりに女房に付き添ってもらって、2 度迄も広島から長崎へ行き、学友に案内してもらって写真を撮ったが、その写真の大きさや方向や形、それに色合い等々で 150 枚ばかりも焼付けをし、また最終的にはプロの会社を訪れ、都合 6 回専門の方による修正もして頂き、やっとどうか形が出来ました。

ところが、今年になって郵便事業 KK 中国支社の方から、この企画は長崎大学の事だから広島では取扱いが出来なくて、長崎北郵便局を紹介するから、そちらから、郵便事業 KK 九州支社 (熊本市) の方へ貴大学長から改めて依

頼して頂きたいとの事でしたので、先日、在長崎市内の数名の方へもこれ迄の経過を申し上げました。更に、出来たばかりの記念切手の原案を河野茂医学部長先生と片峰茂大学長先生へも夫々同様申し上げて詳しくお手紙に認めて、是非発行して頂くようお願いしましたところ、医学部長と学長と相談されて今回は記念切手の発行は、大学としては、発行しない方向だと、医学部総務課長よりお返事を頂きました。

私は詳しい今回の記念切手が、全国の津々浦々まで本学について説明出来る良い機会であり、且つここで学んだ人たちにとっても素晴らしい誇りと、自覚を抱く重大な事になると思うのに淋しく思いました。

ところで、記念切手発行に関しては、大別 2 種類の方法があって、①は慶應大学のように全国の郵便局で発売する方式にしてもらう方法と、②は私的な記念切手発行の場合でテレホンカードに類するもので (例えば、結婚、出産、個人的なお祝い等々のもの) こちらは 1 シートが 80 円切手 10 枚で 1,200 円であって、一律に 1,000 枚発行が 1 単位であって追加は出来ない買い取りのものです。

私達の希望は①のものであるため、平成 23 年度分をお願いすることになりました。そのため、発行が少しは遅れても①の方法で発行したいとお願いしました。

この事は、今後、50 年、100 年、200 年、300 年、500 年、1,000 年・・・先の後輩のことを思うと、桜の植樹と同様に、同窓生をはじめ、後に続く後輩達が、素晴らしくも大きな誇りと希望と人類愛に満ちて、長崎大学医学部を卒業され、昨日より今日、今日より明日へと希望に満ちた人生を送られるであろう事を考えると、本学で学んだ人たちのために、この切手発行が、如何に困難があっても成就すべきだと強く感じるのであります。

数年前に小泉総理によって郵便事業が民営化

され4つの株式会社に分割されたために各地域によって夫々独立の会社になり、且つ、切手葉書などの発行もその方法が二種類に分けられ、各地区で全国の郵便局で、私たちの記念切手を販売して下さることになれば、郵便事業KKが上位の関係官庁である文部科学省から推薦を頂いて、郵便事業KK東京本社へ推薦して頂いて、私たちの記念切手の発行が決定するようになる運びになります。そして、それを今回の中心である東京の郵便事業KKともよくお話をつめて、了解して頂くことになりました。

今後、後に続く大きな節目の卒業クラスの方々は、我々のクラスに続いて大学と相談の上、唯医学部だけでなく夫々の学部のクラスの方々も、各部の学部長と相談して、更に学長さんへ話を上げてもらって後輩のために、花や大樹になる苗木を、幾百年の計を大学と相談して“花や樹々の素晴らしい美しい大樹の森の学園”にしようではありませんか。また、大きな節目には記念切手を今回は医学部だけで発行予定ですが、全学で発行して頂ければ嬉しく思います。東京大学と慶應大学は開学100年の時の記念切手を、長崎大学より開学が遅れていても両大学共100年目に、また、長崎大学医学部よ

り一年遅れの慶應義塾大学は昨年12月に開学150年の記念切手を、また、新たに発行されました。

斯様な後世に残る大変な仕事は、診療の忙しい片手間に一同窓生や、一クラスで行うのではなくて、早くより、大学長より担当の総務を介して働きかけてもらって、早めに出版して貰いたいものだとも思います。

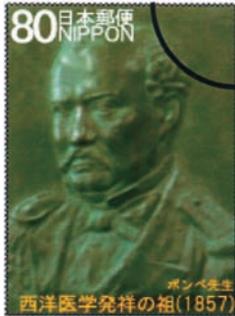
特に、慶應大学では今年(2009年)、東京国立博物館を皮切りに、1月18日より3月8日迄、次いで、福岡市立美術館で5月2日より6月14日迄、更に、大阪市立美術館にて8月4日より9月6日まで、“未来をひらく福沢諭吉展”と題して、巡回展覧会を行い、且つ、立派な本も(A4版434頁、2,500円)出版、販売しています。

今回の記念切手制作に当たり、改めて福沢諭吉先生のこの本も求めて拝読してみますと、慶應大学全体の、組織の偉大さと大学のTopの方々の周到なる計画の立派さと、大学全体がこの記念切手発行の重要な意義と大学の150年間の歩いて来た素晴らしい過程を全国の人たちへ提示出来たことに、大きなエールを送りたいと思います。

記念切手発行 (2007.11)

西洋医学教育発祥150年と長崎大学医学部開学150年の歩み

○ポンペ先生と西洋医学教育発祥の医学伝習所



わが国に於ける西洋医学教育は 1857 年(安政 4 年) 11 月 12 日にオランダ海軍々医ポンペ先生が、松本良順以下 12 名の日本人に「医学伝習所」で西洋医学を教えたことに始まる。

この日から今日まで色々の変遷をして、今日の長崎大学医学部へと 150 年の発展を果たした(2007.11.12)。

○長崎大学医学部開学 150 年の現状 (2007.11.12)



長崎大学医学部開学 100 年、130 年、150 年の時にはオランダ国大使閣下を初め、ポンペ先生の母校や国の内外から多数の関係者をお招きして、盛大な記念式典と祝賀会が行われた。(左)は医学部建物の一部、(右)は附属病院の一部である。

○世界で原爆に被爆した唯一の大学医学部

1945 年(昭和 20 年) 8 月 9 日、午前 11 時 2 分、一発の原爆が 700m の近距離に落ちて長崎医科大学は壊滅し、大きな石柱校門も傾き、大学関係者 900 人余りがなくなった(左)



医学部ポンペ会館の裏に小高い丘があって、ここを「グビロが丘」と呼んでいる。この丘に慰霊碑を建て、この日には毎年不戦と鎮魂を誓い、且つ祈っている(中)。

更に、原爆復興 50 年を記念して(1995.8.9) 校庭にその記念碑と犠牲者の名板を制作した(右)。

○長崎大学医学部卒業後 50 年(昭和 33 年卒・三三会)が過ぎた。

クラス全員で相談して、医学部内を桜公園にしようと植樹した

今年は医学部を卒業して 50 年になるので、予てより希望の染井吉野桜を医学部校庭内、グビロが丘、運動場等に植樹し(左)、更に、国の特別天然記念物である“大村八重桜”を大村市長さんへこの期にお願いし、これも記念に植樹させて頂く(右)。

